

## 15 史跡、遺跡、石碑

松河戸地区内には文化財や多くの石碑があります。

小野道風公や十五の森に関係したものが多く、特に、道風公園、観音寺敷地内にあり、どれも歴史的価値のあるものばかりです。

また、白山神社には、村人の信仰や暮らしを彷彿とさせるものが多くあります。

碑の内容や建碑の古さなどから歴史的価値のあるものは貴重な遺跡となります。

ぜひ、松河戸にある石碑や像を鑑賞してみてください。

- (1) 松河戸にある文化財と石碑 ..... p340
- (2) 道風公園内にあるもの ..... p341
  - ① 小野道風、十五の森関係    ② 小野道風、十五の森関係以外
- (3) 観音寺内にあるもの ..... p344
  - ① 小野道風、十五の森関係    ② 小野道風、十五の森関係以外
- (4) 白山神社内にあるもの ..... p347
  - ①構造物    ②設置物    ③御神木    ④保管所蔵物
- (5) その他 ..... p358
  - ① 小野社    ②十五の森    ③松河戸遺跡
  - ④名古屋上水道と尾張広域緑道
- (6) 弁財天と名鉄瀬戸線 ..... p359



松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## (1) 松河戸にある文化財と石碑

松河戸地区内には、「小野道風公誕生地」が愛知県指定文化財史跡第1号(昭和29年3月12日)に指定され、「十五の森」が市指定文化財史跡(昭和37年11月1日)に指定されています。

文化財書籍としては、市の道風記念館に、

- ①麗花集断簡(八幡切)(県指定昭和62年9月9日)、
- ②伝道風筆紺紙金字法華経断簡(信解品2行切)(市指定昭和61年3月1日)、
- ③伝道風筆紺紙金字法華経断簡(如来寿量品8行切)(市指定昭和61年3月1日)があります。

また、観音寺所有として、

- ①伝道風筆法華経断簡(26行切)(市指定昭和37年11月1日)、
- ②伝道風筆新楽府断簡(4行切)(市指定昭和37年11月1日)があります。

その他に、道風記念館や道風公園内、観音寺境内などに、小野の道風・十五の森関係などの貴重な書籍、遺跡など、白山神社境内には村人の信仰の歴史を彷彿とさせてくれるものが多く存在します。

また稲作農耕が日本に伝わってきた段階での環濠集落が確認された貴重な「松河戸遺跡」なども発見されています。

石碑は、人類が何らかの目的をもって碑文を刻んで建立した石の総称です。後世に末永く伝えることができるよう石に刻んだもので、誰の碑か、何の目的で、誰が書いたのかを知ることが出来る歴史的価値のあるものです。

また、碑の内容、建碑の古い物など歴史的価値のあるものは貴重な遺跡となります。

例えば、小野社に建てられている尾張藩の儒学者である秦鼎(はたかなえ)(1761~1831)撰文の「小野朝臣(道風)遺跡之碑」が文化12年(1815)に建てられ、「松河戸の村民はみな道風がここで生まれたということ伝をえている」という内容が刻されており、先人たちの道風公顕彰活動を読み解くことができます。

そして、大正4年(1915)には、愛知県より「小野道風公誕生地」の評石が建てられ、昭和29年3月愛知県指定文化財史跡第1号に指定されました。



小野朝臣(道風)遺跡之碑

松河戸にある石碑や像を鑑賞してみてください。

### 【鑑賞の要点】

- ① 碑文を読む ② 書き手の芸 ③ 建碑の年代 ④ 彫り(刻)の善し悪し、
- ④ 彫の種類(丸彫り、篠彫り、平底彫り、葉研彫り等)

※ 作った時点での「碑」の価値は、文章づくり、書の揮毫、文字の彫りなどで決まりますが、松河戸にあるものはどれも素晴らしい物ばかりです。

## (2) 道風公園内にあるもの

## ① 小野道風、十五の森関係



## ① 道風記念館

書聖小野道風公の偉業をたたえ、昭和56年11月春日井市が開館した。

書専門の美術館として、また書専門の施設として多くの  
人々の活用を願っている。

## ② 道風公像(記念館前)

昭和61年建立 日展理事 柴田鋼造氏の作品  
道風公の立像で足下に蛙が一匹いる。



道風記念館玄関の右前に立つ道風公像  
と生誕1100年記念碑

## ③ 小野道風公誕生1100年記念碑

平成6年11月遺跡保存会、1100年祭実行委員会によって建てられた。題字は「書聖在茲」

4 藤田東谷先生顕彰碑

昭和 57 年 2 月友人門下生によって建てられた。

藤田先生は長年地元の小野小学校に勤務し児童の書教育に尽力され、昭和 11 年には小中学校席上揮毫大会を開催されたり、書道文化の興隆、道風公の遺跡の顕彰に尽力された。



藤田東谷先生顕彰碑

5 浅野醒堂先生顕彰碑

浅野醒堂先生は愛知第一師範学校の儒学・詩文・書道の教授であった。小野道風公の遺跡の保存顕彰に尽力された。

小さいほうの碑は昭和 20 年の名古屋大空襲で損傷した残碑である。門下生が名古屋市の寺に建てた顕彰碑であった。

大きい碑は昭和 49 年に建てたもので、門下生、先生の子孫、遺跡保存会によって建てられた。



浅野醒堂先生顕彰碑  
大小並ぶ



浅野醒堂先生顕彰碑  
小 拓本

撰文と書は門下生であった安藤直太郎、題額「教不倦」は元首相・若槻礼次郎(克堂)

6 小野道風公顕彰碑

昭和 39 年 11 月遺跡保存会、1070 年祭奉賛会によって建てられた。

この碑には道風公の業績と略歴がかかかれている。

藤田司馬之(東谷)の書と調和して碑群の中でも一際光彩

を放っている。安藤直太郎 撰文 藤田司馬之(東谷) 書



小野道風公顕彰碑と拓本



7 浅野醒堂先生詩碑

昭和 39 年 11 月遺跡保存会により建てられる。

先生の道風を讃えた五言絶句の詩が刻まれている。

「野公翰墨妙、千古冠皇朝、口碑長不朽、今尚見蛙跳」



浅野醒堂先生詩碑 拓本



浅野、安藤先生の歌詩の碑と道風力エル

8 安藤直太郎先生歌碑

先生の 70 歳を祝って「道風ふるさと」を読んだ歌である。

「九重の 雲居にありて 老ゆる日の 夢に入りけむ 松河の里」

9 道風力エル

昭和 31 年 11 月 春日井市小中学校児童生徒一同により建てられた。

柳に跳びつく蛙の像で、像の下の方には「たゆまぬ努力成功のもと」の文字が刻まれている。



道風力エル 拓本



安藤直太郎先生歌碑 拓本

### 10 小野道風公誕生地碑

公園入口の「小野道風公誕生地」と書かれた石標柱である。

### 11 公園内筆塚

初代遺跡保存会会長 長谷川斧氏を顕彰して建てられた。



公園内筆塚

### 12 小野社(道風屋敷跡)

道風屋敷跡は明治末まで八幡社の境内で境内社として小野社があった。

大正元年に白山社に合祀されたが、戦後昭和 21 年に元あった屋敷跡に小野社を復歸して小野道風公を祭った。

現在の社殿は戦前の小野国民学校(現小野小学校)の御真影の奉安殿で昭和 15 年に建てられ、昭和 20 年に移設したものである。

社殿の正面には、今も小野小学校の校章が付けられている。



小野社の敷地内には、小野朝臣遺跡碑、県史跡指定碑、八幡社跡碑がある。

正面にあるのが「県史跡指定碑」、右奥にあるのが「小野朝臣遺跡碑」「八幡社跡碑」である。

### 13 小野朝臣遺跡碑(道風公屋敷跡)

文化 12 年春(1815)尾張藩儒学者「秦鼎撰、中西融書」によって建てられた「小野朝臣宅跡の碑」で、この碑にはこの松河戸の地が道風の誕生地であることがしっかりと書かれているので誕生地を示す大切な石碑である。

秦鼎が文章を作成し、中西融が筆書き、河内孫右利が字を彫った。

裏面には、尾藤広居の碑隠が書かれている。



小野朝臣遺跡碑

### 14 県史跡指定碑

大正 4 年 10 月御大典記念を祝して、愛知県により「小野朝臣遺跡」石碑が建てられた。

### 15 八幡社跡碑

八幡神社は道風屋敷跡地内にあり、大正元年の 1 村 1 社合祀令で松河戸の村社となった白山神社に合祀され境内社となった。元あった八幡神社の跡地の碑である。小野社はそれまで八幡社の境内社であった。



小野朝臣遺跡碑 拓本

## ② 小野道風、十五の森関係以外

### 16 区画整理記念碑

松河戸区画整理事業の竣工記念碑(平成 29 年 10 月 14 日)である。

## (3) 観音寺内にあるもの

## ① 小野道風、十五の森関係

## 観音寺



## 17 道風公像

観音寺山門の南西方向に、昭和4年4月に遺跡保存会や有志の寄贈により建てられたコンクリート像で、昭和4年9月に立像除幕式を行った。

台座3メートル余りの立像であったが、台座は、区画整理の時に埋められ低くなっている。

裏面の銘板 立像 寄附主 勝川 山口悦太郎 台座 遺跡保存会 敷地埋立其他 村方檀徒一同  
昭和四年四月当山十一世 道代 雲岳作  
表面の銘板 「小野道風朝臣之像」「藤景福故書」



天野、東畊……尾張の人で、名は景福、字は子菊、号を、東畊と称し、名古屋中学、や中京高等女学校等で教鞭を執った書家にして漢詩人。文久元年(1861)年の生まれ、昭和21年(1946)没

雲岳……… 浅野雲岳と思われる。名古屋の像建造作者。隣に建立されている弁財天像や崇彦寺勝川大弘法大師像の作者でもある。

### 18 十五の森親子地蔵

昭和44年5月に十五の森遺跡保存会により建てられた。

悲話十五の森の娘、そしてその母の菩薩を供養するために親子地蔵の石像である。



### 19 市川小松顕彰碑

昭和12年5月に観音寺山門の右側に建てられた。

市川小松は、名古屋市古出来町の岩田氏の出である。氏は女性の歌舞伎役者で市川団十郎の弟子であり小野道風役が上手で名古屋で好評を博した。小松氏の一族によって、小松氏が観音寺七世高巖和尚の縁者であることからこの地に建てられた。



### 20 観音寺境内筆塚

昭和59年3月に書の向上を願って建てられた。

毎年道風祭の日に筆供養が行われる。また、平成6年には学問の神「藤原道長」が好かれた牛の像も置かれた。



### 21 道風霊神

観音寺境内本堂の南西の衆寮堂内に祀られている。小野道風公の木像である。



### 22 十五薬師如来

観音寺境内本堂の南西の衆寮堂内に祀られている。今から525年前の哀史「十五の森」の十五才の娘の霊をなぐさめるために祀ったものである。この像の由来については観音寺に伝わる「十五薬師記」に述べられている。この像は室町時代の彫刻の様式をそなえる。



### 23 観音寺道風公宝物庫

観音寺本堂東の玄関の間の東側の壁面の間に市の指定文化財の書跡「紙本法華経断简 紙本新楽府断简」及び「紙本彩色道風公画像(一幅)」などが陳列されている。

寺に申し出れば拝観することができる。



## ② 小野道風、十五の森関係以外

## ○ 弁財天

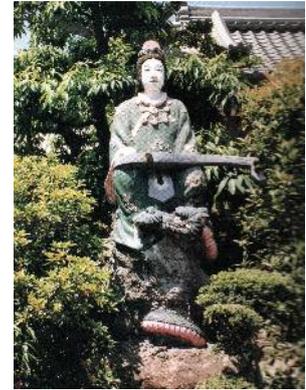
観音寺山門の南東方向に、弁財天の像が立っています。

台座に龍が巻き付いた見事な造形で、琵琶を横向きに持っています。台座に「雲岳」の文字が刻まれています。

これは、名鉄瀬戸線(当時瀬戸電機鉄道)の客誘致の一つとして昭和4年に建てられたものです。

現在は、周りが駐車場になっていますが、昭和40年頃までは池であって鯉、鮒、なまず、亀などがいて、弁天様の池として親しまれていました。

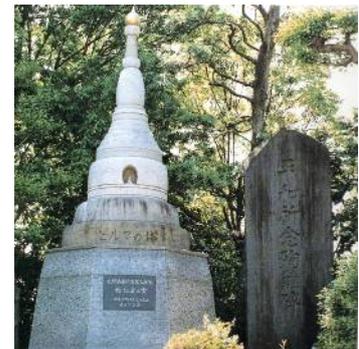
【参照 (P359) (6) 弁財天と名鉄瀬戸線】



## ○ 平和祈念殉難碑

この碑は、「太平洋戦争で松河戸の人たちも、多くの人が戦争へおもむき、国のために一命を捨てられているのをどうかしなくてはいけない」との村の人たちの声が高まりました。そこで区長、区会の人々が発起人となって、昭和24年8月に碑の完成をみました。

表の「平和祈念殉難碑」の字は、当時師範学校の教師であった石田泉城先生の揮毫によるものです。碑の裏面には、戦死19名、戦傷死2名、戦病死5名、戦災死5名、計31名の名が刻まれています。



向かって右 平和祈念殉難碑  
向かって左 ビルマの塔

## ○ ビルマの塔

12世俊道和尚は、大きな犠牲の出たインパール作戦に参加されています。その時九死に一生を得て帰国された戦友が、同じ隊の「元野戦重砲兵第三連隊戦没者之霊」を供養するために、俊道和尚の縁をたよって観音寺境内に「ビルマの塔」を昭和52年8月に建てられました。

## ○ 聖観音像

昭和52年3月、観音寺境内の墓地を拡張して、中島にあった旧野墓をここに移転し完成した記念に当時の檀徒総代が寄進したものです。



昭和52年3月 聖観音像前にて  
旧墓地の移転の儀式にて

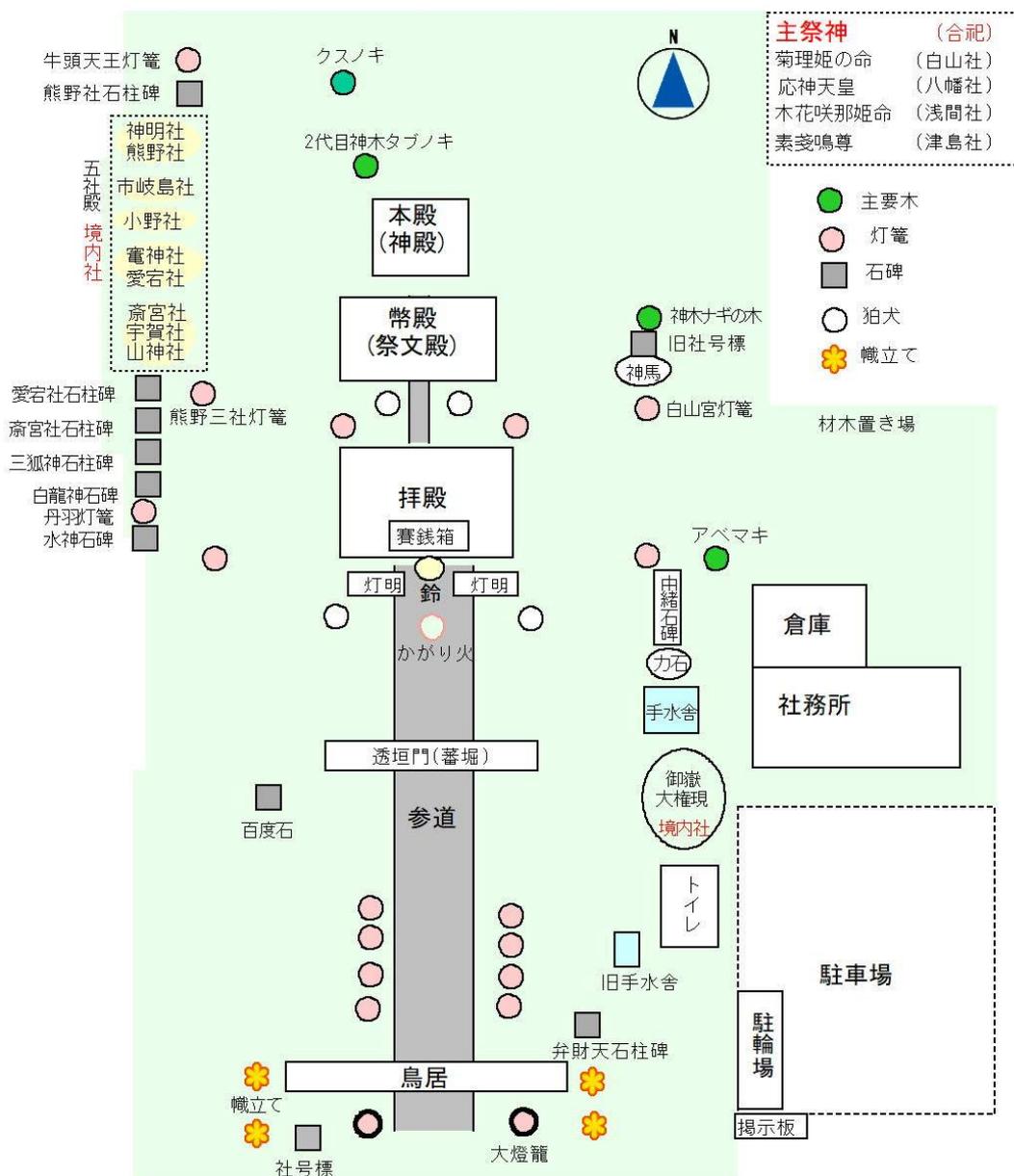
### (4) 白山神社内にあるもの

神社とは、祭祀を行う組織をいいますが、神々を祀るための建物や施設の総称でもありません。

神社の境内は「鳥居」の内側を差し、「玉垣」と呼ばれる石柱が巡らされている範囲を神域としており、神様と参拝する人々を結ぶひとつの世界でもあります。

白山神社の境内には様々な建造物があり、その多くが氏子による奉納物です。

また、紙の記録物や物品なども村人の歴史や信仰を見るうえでも貴重なものとなります。詳しくみていくこととします。



令和4年10月現在

① 構築物

① 社殿

以前の社殿は昭和 11 年に建てられたもので、区画整理を見据え、また 60 年の歳月で老朽化も伴っていたことから、平成 2 年に総工費 7 千万円をかけて、現在の社殿に建て替えられました。再建にあたっては古代建築の美を求め今までどおり木造建築とし、従前の規模・様式を基準としました。

資金は、白山神社所有の土地(河戸 745 番地の 1 山林 552m<sup>2</sup>)、(村中 1301 番地の 4 畑 796 m<sup>2</sup>)で、1 m<sup>2</sup>当り 57,500 円で市土地開発公社に公共施設充当用地として売却し神社造営資金に充当しました。

平成 2 年 1 月 1 日に着工し、平成 2 年 11 月 27 日に上棟式、平成 3 年 6 月 24 日に遷座祭が行われ、平成 3 年 6 月 30 日に竣工奉祝祭、稚児行列が行われています。

白山神社の社殿は、本殿、幣殿、拝殿でてきており、祭祀がそこで執り行われます。

本殿(神殿)5m<sup>2</sup>

(一間四方、階段含め)(一間社流し造り)高床式の穀物蔵(神明造)  
本殿には氏神様がおられ、普段はその扉は閉められています、白山神社の祭礼時に宮司により扉を開かれます。

中には、御神体(木彫神像 4 体)、過去の棟札 8 枚が収納されています。

扉には金メッキの神紋(五三の桐紋)が施され、細部にも飾りが施されています。

高く積まれた石垣の水屋造りの上に高床式の本殿があり、切り妻屋平入の銅葺屋根の妻にも五三の桐紋 18 個が輝いています

幣殿(祭文殿)20m<sup>2</sup>(三間×二間)

幣殿は、祭礼の式典が執り行われる場所で、白山神社の祭礼時には、宮司、来賓、氏子の代表がここに入って儀式が執り行われます。

拝殿(神楽殿)20m<sup>2</sup>(二間×三間)

拝殿の天井は格天井で 6 寸角の柱 12 本で支えられた壁のないオープンな場所で、参拝者が本殿に向かい参拝を行う場所で、御神楽などを神様に奉納する場所でもあります。



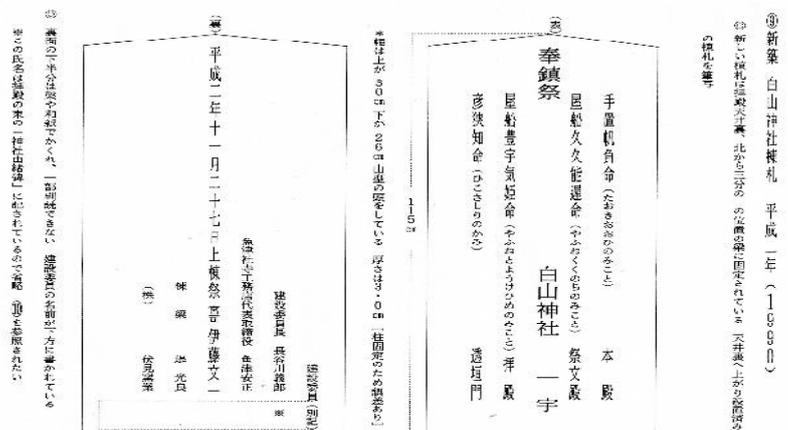
こちらが拝殿、向こうに見えるのが幣殿  
写真は令和 3 年



本殿、高く積まれた石垣の水屋造りの上に本殿がある。  
屋根の妻の部分には、五三の桐紋が輝いている。  
写真は令和 3 年



本殿の扉  
祭礼の時、宮司しかこの扉を開けることができない。  
扉にも五三の桐紋が輝いている。



白山神社棟札 棟札の写しは、平成 10 年 3 月岡島博氏が写し取ったもの

**② 手水舎（てみず又はちょうず）4.47m<sup>2</sup>**

神社を参拝する際には手や口を清める風習があり、これを手水と呼びます。

手水舎は、手水をおこなう建物のことで、昔は庄内川をながれる川の水（湧き水）で、手を清めていました。

この建物は、平成2年の現在の社殿に建て替えられた時に建てられました。「御手洗」の石には建設委員の17名の名が刻まれています。

○旧手水舎は、1代目神木があった北隣にあります。現在は清掃用となっています。

石の水受の正面「奉納」、裏面「明治19年(1886)10月長谷川喜兵衛」と刻まれています。



現在の手水舎



旧手水舎

**③ 透垣門(蕃塀)(不浄除)(目隠し門)**

透垣門(蕃塀)は、「不浄除」、「目隠し門」ともいい、尾張地方の神社に多く見られるといいます。不浄なものが本殿まで行かないよう防ぐ不浄避けの意味と、神様を直接見るのは恐れ多いという考えから視線隠しの意味もあるとされています。

屋根は銅版葺で破風に金メッキの五三の桐紋8個が取り付けられています。

平成2年の社殿が建て替えられた時に建て替えられています。



透垣門

**④ 境内社(五社)**

大正元年9月に「1村1社会祀令」により、各島の神社が白山神社に合祀あるいは境内社とされました。

境内の本殿西側には、それぞれの祠が安置され、5祠9社を祀っています。

また、統合前の各神社の社号標や石碑なども移築されています。

○各島の神社から移築されたもの

**㊦「牛頭天王」石灯籠(高さ185)**

延享3年(1746)建立、道下島の津島神社(天王社)から移転。熊野三社灯籠と同じ型

東正面「牛頭天王」、西面「春日井郡松河戸村氏子」、北面「延享三 天」、南面「9月吉祥日」

**㊦「熊野三社」石灯籠(高さ185)**

延享3年(1746)建立、中島の熊野社から移転。牛頭天王灯籠と同じ型

東正面「熊野三社」、西面「春日井郡松河戸村氏子」、北面「延享三 天」、南面「9月吉祥日」

**㊦「丹羽献燈」石灯籠(高さ185)**

文化7年(1810)建立、村内社の表示がないので、もともと白山宮にあったものと思われる。

東正面「献燈 丹羽源七郎 施主」、西面「文化7庚午(1810)天建立」

現在最古の棟札(1717)に願主 丹羽源七郎との記載がある。

昭和初期(10年頃)の資料によると、社家 丹羽原右衛門との記載がある。(源七郎と原右衛門との関係は?)

**㊦「熊野社」石柱碑(17.2×14.3×100) 昭和43年10月建立**

▲白山神社境内社(五社)

戦後旧社地に小祠を建て祀っていた中島の熊野社から区画整理のため、平成12年3月19日移転した。

㊦「愛宕社」石柱碑(18.5×18.0×123)

川原島の愛宕社から齋宮社跡地に移転し、齋宮社小祠移転時(平成12年3月13日)に白山社へ移転した。

南正面「愛宕社」、東面「国家安全」、北面「明治3庚午2月」、西面「當村 長谷川五三郎」

㊦「齋宮社」石柱碑(17.3×17.7×96.0) 昭和42年10月建立

戦後旧社地に小祠を建て祀っていた段下の齋宮社から区画整理のため、平成12年3月13日移転した。

㊦「三狐神」石柱碑(18.5×18×110)

明治3年(1870)2月建立、川原島(段下)の齋宮社の境内社にあったもので一本の石柱が御神体で、狐の霊をまつり、稻荷神と同じく、豊作の神と水難除けの神にされていた。

東正面「三狐神」、西面「明治3庚午2月」、北面「国家安全」、南面「當村 長谷川五三郎」

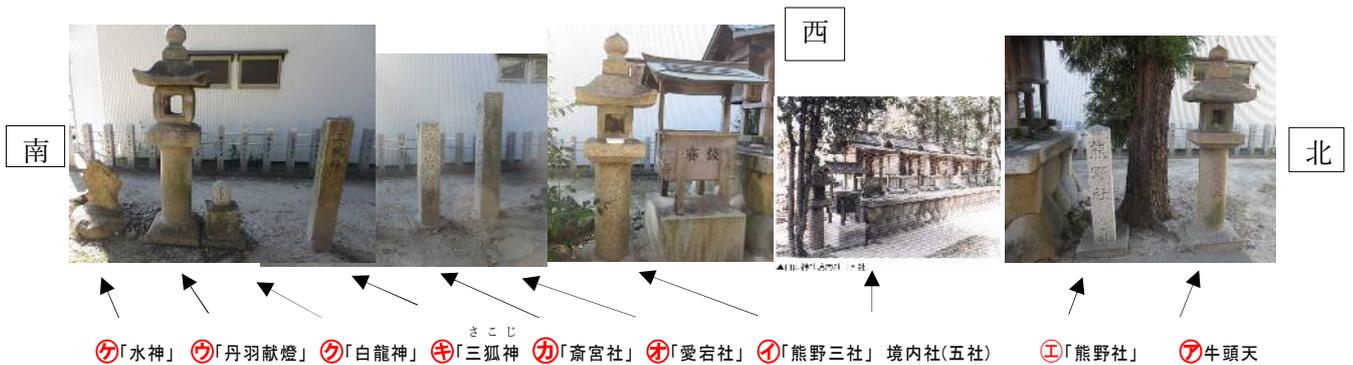
㊦「白龍神」石碑(18×10×25)

卵形の花崗岩自然石大小2個の石がくっついている。

正面に「夢白竜神」と刻まれている。柴山孝個人宅の「屋敷神」から移転

㊦「水神」石碑

堤防脇から移された道下島の津島神社にあったもの



## ⑤ 御嶽社

不浄除(目隠し門)の東側には、石造物を御嶽山を模して小山を築き、「御嶽大権現」や「行者像」を中心にして、「御嶽先達」「大峯先達」碑を配していますが、これは、昌福寺(境内本堂南西にあった)から明治42年(1909)移築され、大正元年(1912)に境内社となりました。

この辺りでは、江戸末期から御嶽講が結成され、明治以降隆盛となり、いろんな分派が生じましたが、この地域では松河戸誕生講が行われていました。

### 礫岩と役行者石像、御嶽社小祠、石碑5基

「大峯先達-6名」明治42年2月発起人講中 75×44×125

「御嶽先達-5名」昭和39年4月発起人講中 61×11×110

「国覚霊神」俗名加藤金次郎 昭和36年2月建立 40×15×40

「覚修霊神」俗名加藤源一 昭和54年5月建立 45×6×70

「富辛中典」 黒色の自然石 17×17×43

「役行者石像」(えんのぎょうじゃ)(30×26×65)左手に巻物、右手に杖を握った形



御嶽社

## ⑥ 鳥居

神社の境内は「鳥居」の内側を差しており、そこは神域で、神様と参拝する人々を結ぶひとつの世界でもあります。

区画整理で参道の中を道路が通ることを見据えて、平成3年6月に現在の鳥居(第2鳥居)が建てられ(写真の奥)、平成22年の境内の配置変更時まで2つの鳥居が存在しており第1鳥居、第2鳥居と呼んでいました。

新鳥居(第2鳥居)には、向かって左の柱に厄年22名、右には還暦12名の名が刻まれており、旧鳥居(第1鳥居)に比べて、若干小ぶりになりました。

手前の旧鳥居(第1鳥居)は、大正元年(1912)11月、村内の神社を合祀又は境内社とされた時に建立されたもので、鳥居の神社境界確定・整備が行われる20年間2つの鳥居が存在していました。

旧鳥居は解体され、鳥居上部の横柱は現在倉庫の北側に置かれており、柱については境内の裏門の石柱となっています。

○旧鳥居(第1鳥居) 柱の下部の回り 108 cm、直径 34.4 cm、2本の柱の間 298 cm 大正元年(1912)11月建立 神明鳥居

○新鳥居(第2鳥居) 柱の下部の回り 100 cm、直径 31.8 cm、2本の柱の間 240 cm 平成3年(1991)6月建立 神明鳥居



▲平成13年 白山神社掃除

旧鳥居の奥に新鳥居が見える。

## ⑦ 参道

参詣するための道のことで、初めの鳥居をくぐって社殿までの道を指しています。

参道の中央は正中と呼ばれる神の通り道であり、参拝のときには真中を避けて端を歩くことが礼儀とされています。

白山神社では、参道がコンクリート敷になっており、正中は砂利道となっています。

平成22年の境界見直しで、長かった参道は半分程度(35mが減失)になりました。



参道 鳥居から透垣門を臨む(現在)

## ⑧ 玉垣

神社の聖域を囲む垣で、氏子等の奉納で設置されています。

・本殿周囲の玉垣 93本は、旧本殿再建の昭和11年5月に奉納された物です。平成25年に補強修理(修理費45万円)されています。

・拝殿周囲の玉垣は、奥の左右18本(計36本)が無名玉垣で、手前の23本(計46本)が昭和51年7月に奉納された氏名玉垣です。

・境界周囲の玉垣は、合計289本+表門2本+裏門2本あります。平成22年区画整理で神社境界が確定して、境界の配置がみなおされ整備された時に奉納されたもので、平成23年5月完成奉告祭が行われました。

② 設置物

① 狛犬

神社にお参りすると参道の両脇に一对で置かれた石製の狛犬を見かけますが、神域に魔物が侵入しないように見張り、神様を守護する役目を持っています。



幣殿前の狛犬 花崗岩製  
大正7年に建立

境内には2対の花崗岩で造られた狛犬がありますが、幣殿の前の狛犬は旧幣殿前にあったもので大正7年に寄付人により建立されたものです。

拝殿の前の狛犬は、平成2年の社殿建立の時に岡島勲はじめ4夫婦8人の寄付により建立されました。



拝殿前の狛犬 花崗岩製  
平成3年6月に建立

旧狛犬 大正7年(1918)2月(寄附人 岡嶋銀左エ門はじめ3人) (岡崎 酒井孫兵エ 刻)

新狛犬 平成3年(1991)6月 (寄附人 岡島勲はじめ4夫婦8名)

狛犬は、口を開けた阿形あぎょうと口を閉じた吽形うんぎょうの一对の像からなっており、表情も微妙に違って見比べてみるのも楽しみです。

② 社号標(名標柱)(36.5×36.5×約300)

神社名を刻んだ石碑で、神社の入り口に設置されています。現在の社号標は、昭和5年(1930)2月建立されたもので、自然石の上に花崗岩の標柱「白山神社」の社標が立っていますが、戦前に立てられた物なのに社格(村社)は入っていないのが気になります。

(戦後GHQにより社格が廃止(昭和21年)され、セメントなどにより塗りつぶした神社も多かったとききます。)



現在の社号標  
昭和5年2月建立



大正元年建立された時の社号標  
写真は、大正元年10月  
～大正7年頃

大正元年(1912)10月に建立された時(各島の神社合祀又は境内社として統合され松河戸の村社となった時)の社号標には、「村社」という文字が入っています。この旧社号標は、現在、幣殿の東側(神馬像の北)に移設されています。

現在の社号標 昭和5年(1930)2月建立 (献主 岡島貞治郎、貞雄、貞義、貞之、貞敏)、(岡崎市 石工 小林秋三郎)

標柱の「白山神社」筆者 才木 蓼 溪 ※堀川須崎橋の石材卸商で書家、大島君川に学ぶ。春日神社由緒碑等の筆跡がある。

旧社号標 大正元年(1912)10月に建立 施主 岡島貞治郎 ※現在幣殿の東側に移設 (22×18×205)

③ 由緒標

由緒標が現在2つあります。

一つは、拝殿前にあるもので、昭和天皇の御大典記念として昭和3年11月に造られたもので、板に墨で書かれており字が薄くなって見づらくなっています。



白山神社由緒標

一、所在 鳥居松村大字松河戸  
字河戸六百六拾九番地  
鎮座

一、社格 村社 大正十三年九月二十六日  
神饌幣帛料供進指定

一、祭神 菊理姫命

一、合祀祭神 應神天皇  
木花咲耶姫命  
素戔鳴尊

一、由緒 社傳明カナラス大正元年九月  
二十五日字村中千六百四番地鎮座  
元無格社八幡社字河戸七百五十  
六番地鎮座元無格社浅間社字  
河戸七百四十五番地鎮座元無  
格社津島神社尾ヲ合祀セリ

一、例祭 十月十六日

一、神境 参百九拾貳坪

昭和三年十一月 御大典記念

もう一つは拝殿の右側の石碑で、現在の社殿が平成2年建立に際し立てられました。裏面には造営委員 人の名が記載されています。

(132.5×25×92.5)

<p>白山神社</p> <p>社格 一、二等 旧社指定</p> <p>鎮座地 春日井市松河戸町六六九番地</p> <p>祭神 菊理姫の命 應神天皇 木花咲耶姫命 素戔鳴尊</p> <p>例祭日 十月十日</p> <p>由緒 創建等については明らかではない、明治3年(一九〇四)の再建の折の棟札がある。この地は県指定史跡「小野道風生誕地」(一九四四年指定)があるように古くから開けた所である。 大正元年に村中の八幡社、愛宕社、熊野社、同境内社の、神明社、宇賀社、河戸の浅間社、津島神社、それに昌福寺境内の御嶽社、元八幡社境内社の山神社、小野社、段下の寄宮社、河戸の市岐島社を合祀した。しかし現況はその跡地に小祠を建て祭祀が行われている。現在の白山神社は、昭和十一年に建てられたものであるが老朽のため痛みが甚だしいので、今回神社の一部を売却しその資金で本殿・祭文殿・拝殿・透垣門を総工費七千両で再建し境内を整備して平成三年(一九九一)六月に遷座祭を行う。</p>	<p>白山神社</p> <p>社格 一、二等 旧社指定</p> <p>鎮座地 春日井市松河戸町六六九番地</p> <p>祭神 菊理姫の命 應神天皇 木花咲耶姫命 素戔鳴尊</p> <p>例祭日 十月十日</p>
---	---



▲白山神社の由緒石碑

④ 白山神社神馬(献馬像)(馬の大きさ 153×50×125)

幣殿の西側にあるコンクリート製の白馬で、旧本殿が建立された昭和11年10月に奉納建立されている。

西側 「奉納」 北側 「昭和11年(1936)10月 長谷川 斧」



▲白山神社神馬

神馬  
手前の灯籠は白山宮灯籠

⑤ 力石

白山神社の境内に「力石」という92Kgの石が飾られています。

これが持てるようになると、村で一人前だと認められたといいます。

本殿東の木の下に保管されていましたが、平成18年(2006)1月に今の場所に設置されました。

力石の由来

当白山神社において、明治時代から昭和の初めにかけて村の多くの青年達が集まり、この石を肩までかつごうと互いに力を競い合ったものと伝えられています。重さは九十二キログラムあります。今では昔を偲ぶたいへん貴重な行事で、未永く保存したいものです。  
由来については、氏子の皆さんからお聞きし、氏子総代でまとめました

平成十八年 月吉日  
氏子 一同



朝日新聞

重さ92kg「力石」鎮座 春日井

石者がかつて力比べに使った重さ92kgの「力石(ちからいし)」が、春日井市松河戸町の白山神社境内の新しい台座の上に据えられた。  
石は幅55cmのラグビーボール形。神社の氏子総代長、長谷川豪(つよし)さん(73)＝写真右＝によると、第2次世界大戦前までは農作業をする若い男が神社に集まり、この石を持ち上げて力自慢をしていたという。しかし、戦後は境内に放置され、そばに小さな表示板が立ててあるだけとなった。  
「このままでは単なる路傍の石になる」と氏子らと相談して、御影石の台座を購入。郷土史に詳しい岡島博さん(76)＝同左＝が紹介文を作り、台座に彫り込んだ。  
岡島さんは「周辺は区画整理で都市化が進んでおり、力石を知る人も少ない。文化遺産として後世に伝えたい」と話している。

⑥ 灯籠

㊦大石灯籠

鳥居の横に設置してある2対の大灯籠は、平成2年の神社建替え時に建立されたもので、石造り基礎の上に台座3段の石灯籠です。

建設委員長はじめ13名の名が刻んであります。

石造り基礎の上に台座3段の石灯籠 平成3年(1991)6月建立



現在の大灯籠と鳥居  
大灯籠の後ろに参道沿いに灯籠が並ぶ

旧大灯籠は、平成 22 年区画整理で境内の配置が見直された時に撤去され、社務所の裏に解体されて置かれています。

石造り基礎の上に台座 3 段の石灯籠がありました。

東側「常夜灯」「秋葉山」「村中安全」元治元年(1864)正月建立

西側「常夜灯」「太神宮」「村中安全」元治元年(1864)正月建立



旧大灯籠と旧鳥居  
写真大正時期

④参道沿いの石灯籠(春日灯籠一对2基、竿部角柱形の宮立型三対6基)

拝殿に向かう参道沿いには、左側に厄年の人達、右側に還暦の人達の寄進した灯籠が並んでいますが、現在の社殿建立以降(平成5年～8年)に整備されました。

⑤「白山宮」石灯籠 (高さ185)

幣殿東側には、延享2年(1745)6月建立の石灯籠があります。

境内最古の石灯籠で、西正面「白山宮」、南面「延享二乙丑6月吉日」、北面「春日井郡松河戸」、東面「願主 氏名9名(不詳)」と刻まれています。文字面風化し判読困難となっています。

(境内最古の建造物)



「白山宮」石灯籠

木灯籠

⑥木灯籠(4基)

頭部木製 竿部柱型の春日灯籠で拝殿の四方に4基設置してあります。平成3年6月建立

⑦ 灯明台 (163×53×163)

花崗岩製の灯明台が拝殿前に設置してあります。

西の灯明台は昭和11年8月に設置、東は昭和42年7月厄年8名によって設置されました。

平成20年代頃まで、氏子の輪番により、毎日夕刻灯明が灯されていました。

西 昭和11年8月 発起人 長谷川斧 同郡小牧町大字 河内屋 佐野重一

東 昭和42年7月 厄年一同(8名)



灯明台

⑧ 神社名額(扁額)(ケヤキの1枚板 166×54×厚さ4)

「白山神社」の浮き彫りの名額で拝殿正面に掛けてあります。

裏書判読不明ですが、明治13年(1880)頃のものといわれています。



神社名額(扁額)と鈴

⑨ その他石碑

㊦「弁財天」石柱碑(18.5×18×102)

鳥居の東に立てられています。明治3年2月建立されており、西正面

「弁財天」、南面「国家安全」、東面「明治3庚午(1870)2月」、北面「當村 長谷川五三郎」と刻まれています。判読が困難な状態です。

(河戸島(中小路)の市岐島社(弁財天)から移転)



「弁財天」石柱碑

### ③ 御神木

初代の神木といわれた「オオバヤナギ」の古木

参道の右側にあり市内でも1本のみという珍しい古木でした。

昔は白山神社の南辺りまで庄内川の流路があり、その川岸か河川敷であった頃から自生していた木ではないかと言われていました。

白蛇が住みついているとされ、樹高は5.9m程でしたが、立ち上がった主幹は本殿の方へ水平に湾曲し再び上へ伸びていました。

伊勢湾台風の後遺症で主幹が2つに裂け、平成10年9月の台風7号で倒れましたが、その老体を横たえながらも、幹の根元からの枝が辛うじて頑張っていました。ついに平成24年頃に枯れてしまいました。



初代神木「オオバヤナギ」

2代目の神木の「タブノキ」の巨木

(幹周300cm)は市内でも数少ない巨木で貴重な樹木です。

樹齢300年以上経っていると思われ、本殿の左裏の叢林に緑の樹冠を盛り上げています。

照葉樹林の代表的樹種のひとつで、古くから樹霊信仰の対象とされ、各地でも「鎮守の森」によく大木として育っています。

白山神社の神木として神社を守り続けてきた生き証人として大切な役割を果たしてきたといえます。

根元には根も葉も無い「茎だけの原始的なシダ植物」「マツバラン(松葉蘭)」が生息しています。

黄色いつぶつぶは胞子の袋です。大昔、シーラカンスが誕生した時代、水中から陸上に上がった頃の原始的植物の体のつくりを現代までそのまま残している「生きた化石」で、絶滅危惧種に指定されています。



2代目神木「タブノキ」



マツバラン(松葉蘭)

「ナギ」の木

祭殿東には「ナギ」の木があります。また若木ですが樹齢40年以上、樹高15m程に成長しています。

竹の様に平行脈で厚く強靱な葉をもつ常緑針葉樹で、樹形はすらっとしており、これが針葉樹とは思いつきません。

手で無理やりちぎろうとしても切れないことから、誰からも傷つけられない縁起のよい木として災難除けにされました。

熊野地方の多くの神社で神木とされ、熊野速玉大社(和歌山県)の御神木は樹齢千年以上とのことです。

昔、神社ではこの実から採った油を石灯籠の灯りに使ったといいます。

この木は神社にゆかりのある木「縁起の良い樹木」(古来から縁結びや災難除けの木として信仰の対象となっていた)で、白山神社の主祭神「菊理姫命」の御神徳と重なる神木(令和3年7月指定)です。



令和3年7月発見された神木 ナギの木

④ 保管所蔵物

① 本殿内部に保管されているもの

「菊理姫命」<sup>くくりひめのみこと</sup>、「応神天皇」<sup>おうじんてんのう</sup>、「木花咲耶姫命」<sup>このはなさくやひめのみこと</sup>、「素戔嗚尊」<sup>すきのうのみこと</sup>の御神体。

㊦ 白山神社の御神体 菊理姫命の木造彩色立像

厨子の底には「寛政四年 鎮座 子四月朔日社僧 昌福現住禪應代 造立」とあり、社僧(別当寺)の昌福寺住職禪應師の時に造立鎮座されたことがわかる。

御神像は背丈 20 センチほどの女神立像で、両手の掌を胸前で重ねた上に皿があり、その上にとぐろを巻き首を持ち上げた形の龍をいただく姿で、加賀白山大権現御神像によく似ている。

白山開山の泰澄大師が養老元年(717)に初めて白山に登り転法輪窟において27日間の祈念加持を勤めたところ、足下の翠ヶ池から巨大な龍が現れたという。

龍の姿が消えると白衣綾羅の唐女のような女神が現れたので拝んでいると、十一面観世音菩薩のお姿になったと伝えられている。

当社の御神像は、この伝説に由来するものと考えられている。

平成 10 年 9 月「郷土誌かすがい」松河戸誌研究会が宮司に聞いたところによる

**◎ 本殿内部の御神体・御神像** 平成十年五月二日「神明社」移転時拝観

本殿内陣は三部に分かれている。扉は三重で総て面開き。一番奥に白木の木箱が格納されている。

☆ 中央の箱 中に朱塗りの御厨子があり、美しく彩色された「菊理姫命」の立姿の神像が納められる

御厨子の底の裏書

寛政四年 鎮座
子四月朔日
社僧 昌福現住禪應代
造立

両手に頭をもたげた龍を舞け持つ。  
菊理姫命 | 白山比め命 (8・5×20 cm)  
木製、顔色や像の傷みは見られない  
寛政四年(1792年)二〇六年前

☆ 向かへて左側 中に御神体の箱(他の御神体箱よりやや大)一切記載がなく祭神名不明。  
箱は釘付け。中に「御幣」の言。 15×12×31 cm 他の御神体箱から考え、「天王社」御神体  
と思われるが、或いは「白山神社御神体」とも考えられる。他の御神体より大きく古い。

☆ 向かへて左側 ①御神体箱「應神天皇」・「木花開耶姫命」 8×7×20 cm  
②中型箱の中に御神像三体鎮座「應神天皇」「木花咲(開)耶姫命」「素戔嗚尊」の三神と考える。  
白木で無彩色、高さ18 cm 横幅9 cm くらい。座位、結跏趺坐、立位(両腕欠損)

③動物の木像一对(獅子か拍犬) 片足欠け虫書がひどい。裏に釘穴、柱等の固定式。守護神。  
※ 第二扉の内側に棟札九枚収納(詳細別記) 正面に「鏡」一基 その前に御幣(みす)が下がる。

御神体(箱) 8・0×7・0×20・0 cm 釘付け密閉中に御幣(コトコトと言)

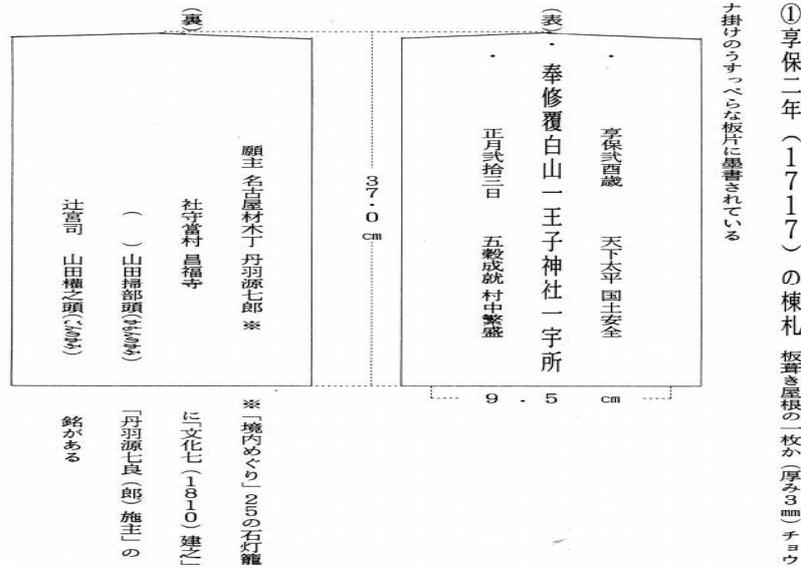
社掌 勳七等 松本美三	應 神 天 皇	元無格社八幡社祭神ナリシガ 大正元年九月十二日 允許ヲ 得テ 當村社祭神ニ合祀 大正元年九月二十五日合祀シ奉ル
社掌 勳七等 松本美三	木 花 開 耶 姫 命	元無格社浅間社ノ祭神ナリシガ 大正元年九月十二日 允許ヲ 得テ 當村社祭神ニ合祀 大正元年九月二十五日合祀シ奉ル

松河戸白山神社の記録 岡島博氏 平成 10 年 3 月から

① 白山神社の棟札

白山神社社殿の現存棟札は下記のとおりです。①～⑤は、本殿に保管されている。

- ①享保 2 年(1717) 白山一王子神社修復 戦前の棟札に記載されていた。(棟札あり、享保 2 年 1 月 23 日)
- ②昭和 11 年(1936) 白山社本殿建立(旧社) (棟札あり、昭和 11 年 6 月 14 日)
- ③昭和 15 年(1940) 山神社本殿建立(旧社) (棟札あり、昭和 15 年 1 月 14 日)
- ④昭和 50 年(1975) 白山神社祭文殿 末社修理 (棟札あり、昭和 50 年 7 月 31 日)
- ⑤昭和 55 年(1980) 白山神社社務所新築 (棟札あり、昭和 55 年 1 月 13 日)
- ⑥平成 2 年(1990) 現在の社殿 (棟札あり、平成 2 年 11 月 27 日) 拝殿天井裏の梁に固定されている。



松河戸白山神社の記録 岡島博氏 平成 10 年 3 月から

㊦ 各島神社の棟札 3枚

- ①熊野社 文政十一年(1828)
- ②熊野社(事佐雄之尊) 屋根葺替 明治二十六年(1893)
- ③熊野社(速玉雄命) 屋根葺替 明治二十六年(1893)

○ 現在不明の棟札

戦前まで残っていた明応3年(1494)白山神社再建の棟札は不明です。ただし、戦前の神社の記録に棟札の文字は残されていました。

その中に、下記3つの棟札の記載があった。

- ・明応3年(1494)再建 不明
- ・慶長11年(1606)再建 不明
- ・元和9年(1623)再建 不明

「奉造立一御前上肯明應參年甲寅三月六日敬白 大工山田莊上飯田藤原長久九郎兵衛 檀那庵実内道範浄金徳兵衛 近本弥七」

「奉再興上酉月一之王子願主敬白 慶長拾壹年丙午九月十五日」

「奉再興一王子 尾州東春日井郡柏井郷松河戸村敬白 大工藤原弥衛門 同茂左工門 社人丹羽源右工門 時二元和第九亥子(1)卯月十五日 本願 生田藤十郎」

裏面 矢野多左衛門 加藤善太郎 各々 檀那

註 (1)癸亥の誤りか。

- ① 東春日井郡の文字は、棟札から転記する際に、記入者が誤って当時の郡名を書いたものと思われる。
- ② この記録から推測すると、明応、慶長、元和の古い棟札を新しく一枚の棟札の表と裏にまとめて書き直したものと考えられる。
- ③ 慶長と元和の棟札には、奉再興とあるが、明応の棟札には、奉造立とあるので白山社の創建を伝えるものと考えられる。
- ④ この記録には「宝物 古代陶器高麗狛一對」とある。この狛犬は昭和の中頃まで、本殿前の廊下に安置されていた。

資料 郷土史かすがい 第53号白山信仰

② 保存備品等(主なもの)

㊦ 馬道具(倉庫保管)

昭和37年に終わった馬の塔(オマント)で使用した馬の飾り着です。

各島(6島)の物が保管されており、最も古いものは、明治8年(1875)6月16日(門田島箱書き)です。毎年、提灯山の昼間に境内で虫干しを行っています。

## (5) その他

### ①小野社(白山神社の境内社)

白山神社本殿の西側にある境内社のひとつで、五社殿の真ん中にあり、祭神は「道風武大明神」である。

小野道風公ゆかりの地、京都の北区杉坂道風町の神社の道風神社の祭神も「道風武大明神」である。

道風屋敷跡は、明治末まで八幡社の境内で、境内社として小野社を祀っていたが、大正元年に白山社に合祀された。

戦後昭和 21 年にもとあった所に小野社を復興して小野道風公を祀った。



### ②十五の森跡

今をさる約 526 年前 明応 3 年に造られた塚の跡で、愛知電機の駐車場の中にある。

占師の言を聞いて 15 歳の娘を人柱として埋めたところで、その後洪水はなくなったと言う。【参照(p311) 12 十五の森の悲話】



### ③松河戸遺跡

道風公園の北部一帯に整然と広がる水田地帯に所在した広大な遺跡である。

縄文時代の終わりから弥生時代の始まりにかけての遺構が確認されており、稲作農耕が日本に伝わってきた初期の段階の遺物であり、縄紋中期・弥生前期・古墳中期の集落、中世の条里地割水田などが確認されている。

特に弥生前期の環濠集落は、愛知県下でも最大級の規模を誇り、環濠内および居住域を横断する自然流路から多数の木製品が出土した。

今は、遺跡の中心であった安賀公園内に、案内看板が立てられている。



【参照(p329) 14 松河戸遺跡】

### ④名古屋上水道と尾張広域緑道

ここは、名古屋市民の生命の水である名古屋市上水道が通っている。

明治 43 年(1910)着工し、大正 3 年(1914)に完成し、木曾川の犬山城直下のトンネルの脇(水道の取り入れ口)には、昭和 39 年(1964)に通水 50 年を記念して「水道の碑」が建てられた。

戦前、鳥居松陸軍工廠建設場所に松河戸も候補にあがったが、この名古屋市上水道が通っていたことから上条に決まったという。

この上(尾張広域緑道)は、松河戸の水田を南北に貫く広い道で、「水道みち」とよんで農作業道として利用していたが、「昭和天皇在位 60 年記念事業」の一環として尾張広域緑道として庄内川畔(春日井市松河戸町)から木曾川畔(犬山市)までを結ぶ約 19.5 キロメートルに渡って整備が進められた。

この施設はいわゆる"大規模自転車道"には該当せず、所管する愛知県では「公園」と位置づけている。



庄内川堤防下に立てられている看

(6) 弁財天像と名鉄瀬戸線

観音寺山門の南東方向に、弁財天の像が立っています。

これは、名鉄瀬戸線(当時瀬戸電機鉄道)の客誘致の一つとして建てられたものです。

瀬戸においては古くから窯業(瀬戸焼)が盛んであり、貨物輸送の需要は高く、鉄道の敷設は悲願でしたが、明治20年代に当時国が整備を進めていた中央本線の誘致に失敗してしまいます。

ただ、地元により鉄道を敷設すれば、接続点として中央本線に大曾根駅を開設するとの国の意向を取り付けたため、瀬戸 - 大曾根間の鉄道敷設の気運が高まり、瀬戸の実業家らの出資により、瀬戸から矢田の鉄道敷設が明治38年(1905)実現しました。

しかし中央本線の大曾根駅はなかなか開業されなかったため、名古屋都心部への乗り入れを並行して進め、明治44年(1911)に全線開通しました。

その後、瀬戸電は輸送力の増強と設備の近代化を図り、1929年(昭和4年)12月までに全線が複線化されました。

開業以来、貨物輸送が収入の大きな割合を占めていたため、昭和恐慌などによる窯業の不況のあおりを受けて、業績は急速に悪化しました。

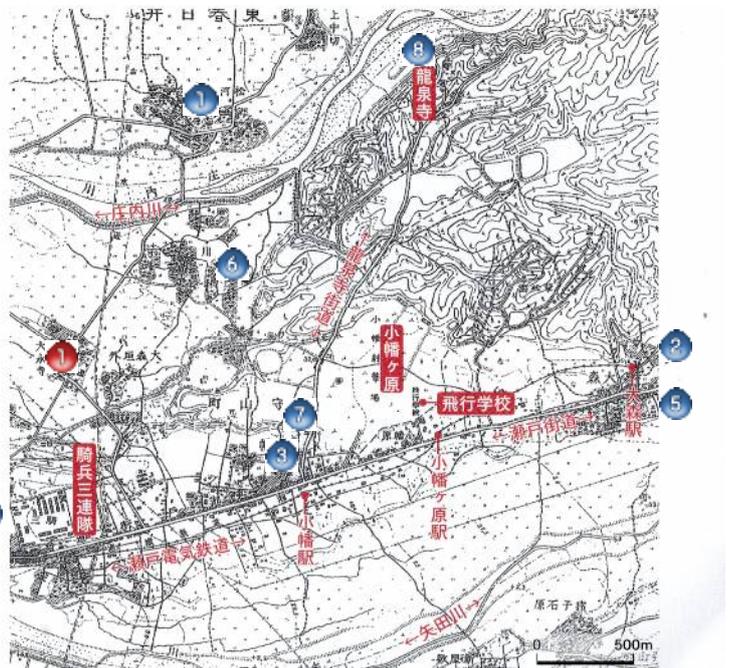
そこで、沿線の好況は瀬戸線の増収に結びつくことから、沿線に七福神を祀り名古屋からの参拝客を運ぼうとして、沿線の寺に蓬莱七福神が設けられることとなり昭和4年に観音寺の弁財天が建立されました。

七福神の参拝は毎月7日に行われ、1月、4月、10月は大祭が行われ、参拝者には時の物を入れた五目御飯などを提供していましたが、この行事も太平洋戦争の悪化に伴い消滅しました。

現在は、周りが駐車場になっていますが、昭和40年頃までは池であって鯉、鮒、なまず、亀などがいて、弁天様の池として親しまれていました。

蓬莱七福神

	仏像	寺院名	住所
①	弁財天	観音寺	春日井市松河戸町
②	恵比寿	良福寺	尾張旭市印場元町北山
③	大黒天	長慶寺	守山区小幡中
④	毘沙門天	宝勝寺	守山区市場
⑤	福禄寿	法輪寺	守山区大森
⑥	寿老人	長命寺	守山区白沢町
⑦	布袋尊	弘法寺	守山区小幡大屋敷
⑧	別格宝船	龍泉寺	守山区龍泉寺



名鉄瀬戸線と蓬莱七福神の寺 地図は昭和8年当時  
①は大永寺

昭和4年9月15日に開催された「弁財天像」、「小野道風像」の除幕式に際し、当時の鳥居松村長代理助役であった河原氏の祝辞が残されています。

「本日茲ニ故小野道風公ノ立像除幕式ヲ兼ネ七福神ノ一ツナル辨財天ノ奉安式ヲ挙行セラルルニ當リ本職ノ列スルヲ得タルハ光榮トスル処ナリ(中略)  
 此ノ地ノ生ナル大書家道風公ノ遺跡トシテ餘リニ寂シキヲ嘆ジ本村ノ隣接勝川町在山口悦太郎氏ハ武田観音寺住職ニ諮リ自ラ永劫不滅ノ立像建立を企画シ月ヲ閲スルコト数ヶ月今ヤ其ノ功全ク竣リ本日ヲトシテ除幕ノ式典ヲ挙行セラル 誠ニ慶スベキナリ(中略)  
 尚之レガ計畫ノ實施遂行ニ方リテハ武田良道師ヲ始メトシ瀬戸電氣鉄道株式会社竝松河戸部落民諸氏ノ尠少ナラザル後援ニヨリ茲ニ崇高ナル道風公ノ風貌ニ接シ得且辨財天ニ詣ヅル事ヲ得ルナリ(後略)」

二体の像(道風公像、弁財天像)は、「山口悦太郎」によって企画され、観音寺、瀬戸電、松河戸民の協力で「雲岳」によって製作されました。

制作者の雲岳は、浅野雲岳で、名古屋の日比野の人で、他に崇彦寺の勝川大弘法大師像など、春日井に多くのコンクリート像を残しています。



弁財天像



小野道風像

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>